

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025 年 1 月 5 日

学校法人柴学園
しおどめ保育園江戸川中央 御中

〒 203-0031

所在地 東京都東久留米市南町1-13-38

評価機関名 株式会社ふくし・ファーム

認証評価機関番号

機構 04 - 134

電話番号 03-3332-3334

代表者氏名 加藤 正樹



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者 (担当分野・評価者養成講習修了者番号)	担当分野	修了者番号
	福祉	H0601051
	経営	H2001058
	福祉	H1801008
	経営	H1901079
福祉サービス種別	小規模認可保育所	
評価対象事業所名称	しおどめ保育園江戸川中央	
事業所連絡先	〒	132-0021
	所在地	東京都江戸川区中央2丁目27番2号
	Tel	03-3656-0788
事業所代表者氏名	深津 千尋	
契約日	2024 年 6 月 4 日	
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 10 月 15 日	
利用者調査結果報告日	2024 年 11 月 15 日	
自己評価の調査票配付日	2024 年 7 月 23 日	
自己評価結果報告日	2024 年 11 月 15 日	
訪問調査日	2024 年 11 月 19 日	
評価合議日	2024 年 12 月 10 日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	事前説明には、評価の理解を深めていただくため、評価の全体像や具体例を用いた分かりやすい資料を作成し、ていねいに説明を行いました。事業評価においては、自己評価の事実確認に徹し、第三者性の担保に配慮しました。また、利用者調査および事業評価の集計結果は、独自開発による集計シートを用い、グラフ・表により分かりやすく報告しました。	

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

2025 年 1 月 5 日

事業者代表者氏名

学校法人 柴 学園
理事長 柴 明彦



1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 【保育理念】 子どものあるがままの姿や思いを受け止め認め支えていく。 保護者とは「子ども真ん中」にした関係を築くことで、子どもの心の育ちを支援する。 【保育方針】 一人ひとりの子どもが心身ともに健やかで豊かに育つよう保護者とともに育む。 一人ひとりの子どもの主体性を尊重し、乳幼児期にふさわしい生活の場をつくっていく。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割 ○子どもの心に寄り添い、子どもを主役に出来る保育士。
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ○子どもを取り巻く環境すべてに対して、細かな配慮ができること。自分の為ではなく、子どものために他職員のために、常に反省と評価、そして適切な配慮ができること。園全体の質を高めるための一員である責任感を持ち、自分自身の成長へと繋げるとともに、達成感を持てること。

調査対象

調査対象は、在園児の保護者全員を対象とし、複数のお子さんが通っている場合は最年少児について、1世帯1回答のご回答をいただきました。
[調査対象世帯数：17世帯(在園児19名)]

調査方法

園より保護者全員に調査票を配布して頂きました。回収については、評価機関への郵送、または園内に設置した回収箱への投函により提出して頂くようにしました。

利用者総数

19

利用者家族総数(世帯)

17

共通評価項目による調査対象者数

17

共通評価項目による調査の有効回答者数

13

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

76.5

利用者調査全体のコメント

「現在利用している保育園を総合的にみて、どのように感じていますか」との質問に対して、「大変満足」84.6%、「満足」15.4%、「大変満足」と「満足」を合わせて100%の回答率となっています。「どちらともいえない」0%、「不満」0%、「大変不満」0%、無回答が0%でした。個別設問では、問2「園活動への興味や関心を示し、学びや遊びを楽しんでいるか」をはじめ、問3・4・6・8・9・10・11・12・13・15・16について「はい」の回答率が100%と高く、問17「外部の苦情窓口にも相談できることを伝えられているか」では「はい」の回答率が76.9%と最も低くなっています。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	12	1	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の92.3%を占め、「どちらともいえない」が7.7%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	13	0	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の100%を占め、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	13	0	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の100%を占め、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	13	0	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の100%を占め、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	12	1	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の92.3%を占め、「どちらともいえない」が7.7%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	13	0	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の100%を占め、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	11	2	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の84.6%を占め、「どちらともいえない」が15.4%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	13	0	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の100%を占め、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	13	0	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の100%を占め、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	13	0	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の100%を占め、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	13	0	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の100%を占め、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	13	0	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の100%を占め、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	13	0	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の100%を占め、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	12	0	0	1
この項目では、「はい」と答えた方が全体の92.3%を占め、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は7.7%という結果でした。自由記述欄に寄せられた意見はありませんでした。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	13	0	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の100%を占め、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述欄に寄せられた意見はありませんでした。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	13	0	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の100%を占め、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述欄に寄せられた意見はありませんでした。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	10	1	1	1
この項目では、「はい」と答えた方が全体の76.9%を占め、「どちらともいえない」が7.7%、「いいえ」が7.7%、「無回答＋非該当」は7.7%という結果でした。自由記述欄に寄せられた意見はありませんでした。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準项目实施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
	カテゴリ1の講評		
	法人・エリア・職種別会議を開催し理念や運営方針を職員に周知し理解を深めています 法人の理念「豊かな心と感性を育てる」と運営方針「子どもの保育と教育を通じて社会に信頼される施設」は、職員が深く理解できるように、法人・エリア・職種別会議で周知しています。また、園の保育理念や目標については、法人パンフレットを活用して職員に周知し、保護者には園のしおりや重要事項説明書、江戸川区の保育の質ガイドラインを通じて理念を伝えています。さらに、入園説明会では園長が直接説明を行い、職員と保護者が理念を共有し、一貫した保育の実現を目指しています。 経営層は、リーダーシップをもって職員の労働環境を改善し保護者の意向に応えています 園長の責任や役割はキャリアパスプランに明記され、職員会議で共有しています。中でも、「職員の意欲向上」を最も重要な役割だと考えています。また、事務員は園長のサポート役として配置され、経理や人事などの事務業務を担い、その内容は文書化されて全職員に周知しています。さらに、経営層のリーダーシップの一環として、待遇の改善や行事の見直しに取り組んでいます。こうした取り組みによって、保護者や卒園児が参加できる行事が増え、園のことを知ってもらう機会が多くなりました。 園内の重要案件については、職員会議で検討・決定し、周知しています 法人は理事会・園長会議・エリア会議を設け、理事長や園長、担当事務員が参加して重要案件を検討しています。園内では職員会議を開き、園長や分野別リーダー、常勤職員が重要案件を協議しています。最近では、園内では保育体制を見直し、職員会議や回覧により職員と共有しました。また、保護者の意向に沿って、夏祭りの開催方法を変更し、保護者も参加できるようにしました。このような事例については、ICTアプリにより周知しています。		

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 サブカテゴリ1(2-1) 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6 評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 5. 事業所の経営状況を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している ○非該当 サブカテゴリ2(2-2) 実践的な計画策定に取り組んでいる サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5 評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている ○非該当 評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している ○非該当 ●あり ○なし 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる ○非該当 カテゴリ2の講評 アンケート・個別面談・自己課題シートなどで保護者や職員の意向を把握しています 保護者の意向については、行事アンケートや個別面談を通じて把握しています。例として、「変装見学」を実施しました。親が変装して保育を見学することで、子どもの自然な姿を観察でき、保護者から「子どもの様子がよく分かった」と好評を得ています。また、職員には個別面談や自己課題シートを用いて意向を聴取し、「絵本の充実」などの保育ニーズを把握しています。その意向を反映し、絵本の購入を検討しています。 「事故対応」「在園児の継続利用・新入園児の獲得」を重点課題として捉えています 小規模連絡会などを通じて地域の福祉ニーズを把握し、特に「保育士の質の向上」が求められていることを認識しています。そこで、他園との「保育士交流」を実施し、スキル向上に取り組んでいます。また、福祉事業全体について、保育ネットワークへの参加や業界誌の購読を行い、最新情報を収集しています。さらに、園の予算と実績を事務員が管理し、年度初めに職員会議で共有する仕組みを整えています。以上のように事業環境を分析した結果、「事故対応・緊急時対応」「在園児の継続利用、新入園児の獲得」を優先度が高い課題として捉えています。 単年度計画は前年度末に作成し、ホームページのリニューアルを重点目標に掲げています 中・長期計画を5年・10年の単位で策定し、「園児の定員確保」と「職員の定着」を重点目標としています。園長を中心に作成し、年度初めに職員会議や掲示、回覧を通じて職員に周知しています。また、単年度計画は前年度末に策定し、「ホームページのリニューアル」を重点目標に掲げ、同様に職員へ周知、共有しています。進捗管理の一環として、「ヒヤリハット月5事例以上」の目標を設定し、進捗を職員会議で報告しています。計画見直しの際はリーダー会議で議論し、園長が最終判断を行っています。 7/26		
---	--	--

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

	カテゴリー3の講評
	職員に規則周知や研修を徹底し、理解を深めコンプライアンス遵守を強化しています 法人では、職員が守るべき法や規則に関する理解を深めるため、「正社員就業規則」「パート職員就業規則」「セルフチェックシート」「自己評価シート」を整備しています。これらは事務所内に保管され、入職時や年1回研修や会議で職員に説明しています。また、セルフチェックシートや自己評価シートで職員の理解度を確認し、不足がある場合は、園長による面談や追加研修を実施し支援しています。これらの取り組みを通じ、法令遵守と倫理意識の向上を図っています。 苦情対応や虐待防止について、研修やマニュアルにより職員の対応力を強化しています 苦情があった際にはリーダーが受け付けし、園長が解決します。苦情解決制度は重要事項説明書や掲示で保護者に周知し、苦情解決マニュアルに基づき、直接もしくは書面で回答します。職員の子どもに対する適切な関わり方について、国のガイドラインを活用し、適切でない言葉の例を掲示したりチェックシートを活用したりして職員の理解を深めています。虐待が疑われる場合にはマニュアルに沿って、子ども家庭支援センターと連携して対応しています。虐待に関する知識についても、外部研修の内容を展開させた園内研修を実施し、職員に周知しています。 地域の子育て支援として、ベビーマッサージやベビーヨガの企画を検討しています 玄関に全体計画を掲示し、事業計画・予算・決算報告をホームページで公開し、運営の透明性を確保しています。ボランティア受け入れ時は、地域支援担当が対応します。地域貢献としては、小規模連絡会（月1回）や地区別会議（年2回）に園長が参加し、直近では不適切保育の議題を受けて資料の周知やマニュアル見直しに取り組んでいます。さらに、今後はベビーマッサージやベビーヨガ教室を企画し、地域の子育て支援を強化したいと考えています。

4	カテゴリー4		
	リスクマネジメント		
	サブカテゴリー1(4-1)		
	リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
			5/5
	評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		
	評点(〇〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
	●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当	
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当	
サブカテゴリー2(4-2)			
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	
		4/4	
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			
評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当	
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当	
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当	
カテゴリー4の講評			
園児の定員割れリスクへの対策として、保育所体験を実施しています 運営に関わるリスクとして、「園児の定員割れ」「不適切保育」「事故」などを挙げ、事業計画書に明記しています。これらのリスクに対して、地域の子育て支援の一環として「保育所体験」を実施し、園について知ってもらう機会を提供しています。これにより、入園につながるケースも増えてきています。また、「不適切保育」に関しては、事例を職員会議で共有し、研修を通じて職員の意識を高めています。 地震・液状化・感染症などを想定したBCPを策定し、毎年度見直しを行っています 首都直下型地震や南海トラフ地震・液状化・津波・感染症を想定した事業継続計画(BCP)を策定しています。3日分の防災備蓄品を備え、BCP内容を職員には回覧で、保護者には掲示や保護者会で周知しています。また、ビル管理者など関係機関とも合同で訓練を行っています。事故・感染症・災害が発生した場合は、事故報告書やヒヤリハット報告書に記録し、職員会議で分析・再発防止策を検討、利用者には一斉メールで報告します。また、年1回BCPの見直しを行い、危機管理の強化に努めています。 アクセスや閲覧制限を設けることで、安全で適切な情報管理に努めています 情報の収集・利用・保管・廃棄に関するルールを個人情報保護規定で定め、職員には誓約書を取り交わしています。機密資料は事務室内の鍵付きロッカーで保管し、持ち出しを禁止しています。電子データにはIDやパスワードによるアクセス制限を設け、必要に応じてパスワードを変更しています。さらに、機密文書の廃棄は専門業者に依頼し、適切に溶解処理を行っています。なお、保護者に対しては、個人情報の利用目的や開示請求方法を重要事項説明書に明示し、緊急時には保護者の了承を得ずに情報を提供する場合があることを定めています。			

5 カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ5の講評

採用活動では、残業が少ないことや福利厚生が充実していることをPRしています

職員採用では、保育観を重視しています。就職フェアへの参加やハローワーク、人材紹介サイトの活用、また職員の出身専門学校との連携を通じて応募者を促進しています。施設のホームページでは、残業が少ないことや充実した福利厚生を強調し、職場の魅力を伝えています。また、職員の育成と将来の人材構成を見据え、毎年10月の進退伺を通じて職員の意向を把握しています。キャリアパスは4階層で設定しており、新人研修やリーダー研修などを階層ごとに計画・実施しています。

個人別の育成計画は、個人面談や自己評価シートを活用して策定しています

全職員を対象に年間研修計画を策定し、職種別の研修計画を明確にしています。非常勤職員には、園内研修を中心とした計画を作成し、スキル向上を支援しています。個人別の育成計画は、職員の意向や経験を把握するために個人面談や自己評価シートを活用して策定しています。育成の成果は、日々の保育現場視察や自己評価シートの記録を通じて確認しています。また、職員一人ひとりの意見やアイデアを活かすため、クラス会議や職員会議では、司会をローテーションすることで発言を促すとともに、職員同士の活発な意見交換を行えるようにしています。

福利厚生として借上住宅や退職金制度のほか、福利厚生施設の宿泊補助を導入しています

職員の育成と評価は自己評価シートを参考にしながら、個人面談で行っています。福利厚生として、借り上げ住宅制度や退職金制度のほか、共済の福利厚生施設の宿泊補助を取り入れています。また、有給休暇の取得率向上を目指し、休み希望の確認するとともに、個別で管理しています。さらに、職員の定着に向けて、園長は日頃からコミュニケーションを心がけながら保育現場に入るようにしています。

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	カテゴリー7
サブカテゴリー1(7-1)			
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている			
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)			
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 小規模保育園の存続危機を意識して、前年度において、「保育園の認知度向上」を重要課題の一つに掲げました。この課題の対応策として、「保育所体験の実施」を目標に設定しました。具体的には、地域の子育て支援として、保育体験を随時受け付け、実施期間を1年と決めました。また、保育所体験に関する情報をホームページに掲載し、問い合わせがあった際には迅速かついいねいに対応するよう心がけました。取り組みの結果、20人ほどの参加があり、園では目標を達成できたと自己評価しています。今年度も継続して取り組むこととしています。			
目標の設定と取り組み		☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった	
取り組みの検証		☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
検証結果の反映		☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である	
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 地域への積極的な声かけや問い合わせへのいいねいに対応により多くの参加がありました。今年度は「よりオープンな保育園」をテーマに掲げ、ホームページのリニューアルにも取り組んでおり、今後も積極的な情報発信をしていくことで、地域における認知度が向上していくものと思われます。			

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度において「不適切保育の予防」を重要課題の一つとして位置付けています。この課題に対して、園内研修およびセルフチェックの実施に取り組みました。園内研修については、事例を共有し、職員間で理解を深める場を設けました。また、セルフチェックシートの導入により、各職員が自身の保育活動を振り返る機会を設けています。定期的にチェックリストを活用することで、改善点も明確にすることもできました。あわせて、職員ごとに課題評価表を導入し、取り組み状況を可視化するとともに、面談を通じて具体的な課題や改善策について話し合うようにしました。こうした取り組みの結果、職員の意識改革につなげることができました。園ではおおむね目標を達成したと自己評価しています。一方で、職員ひとり一人が行動に移すまでは時間を要するため、継続して取り組むことが必要だと考えています。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

不適切保育に対する意識向上を目的として、園内研修やセルフチェックシートを導入しています。これらの取り組みには一定の成果が見られましたが、課題も明らかになっています。具体的には、「セルフチェックリストの内容を見直し、より具体的で実効性のあるものにする」と、「個別面談だけでなく、グループディスカッションを通じて相互学習を促進すること」などが挙げられます。不適切保育の予防に向けたこれらの取り組みは、職員の成長を促進するだけでなく、子どもたちにとって安全で健全な環境を提供するためにも重要です。今後も取り組みを深化させ、地域社会への貢献を高めることが期待されます。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当	
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当	
サブカテゴリー1の講評			
ホームページに加え、ICTアプリを活用しながら園の情報を発信しています 園の情報を提供する媒体として、リーフレットを発行し、「理念・方針・目標・施設概要・年間行事・給食」などの内容を紹介しています。なお、このリーフレットは英語版も用意しています。また、ホームページには、園の概要・施設案内・園での過ごし方などの項目を設けています。加えて、ICTアプリを通じて週1回程度、園の取り組みや様子を発信しています。 見学は随時受け入れ、園内を見てもらいながら乳児専門の保育について説明しています 見学者対応は、主に園長またはリーダーが担当しています。見学の際は園のリーフレットに基づいて、乳児専門の保育を行っていることなど園の特徴について分かりやすく説明しています。そして、事例を交えながら、子どもたちがやりたいこと、できることを実現するための具体的な支援方法を紹介しています。			

サブカテゴリ-2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
入園が決まった保護者に必要書類を郵送し、入園説明会で保育内容を伝えています 入園が決まった利用者には、入園のしおり・重要事項説明書・利用契約書・児童票・食材摂取表・承諾書類・健康調査票・SIDSパンフレット・登園許可書・インフルエンザ診断報告書・災害時引き渡しカード・健康診断票・延長保育利用申請書・保育料引落しの手紙・手ぶら登園パンフレットなどの資料を用意し、郵送により配布しています。そして、入園説明会を3月2週目の土曜日に開催し、保育内容を分かりやすく伝えています。その際、サービス内容について、重要事項説明書で、プライバシーの保護については、利用契約書で同意を得ています。 入園児には9日間の慣れ保育を実施し、子どもや保護者の不安を軽減しています サービスの開始にあわせて、アレルギーや既往歴などの子どもの健康状態を健康調査票・食材摂取表・児童票などで把握できるように努めています。その上で、子どもの不安やストレスが軽減されるように、慣れ保育の期間を9日間を目安に設定しています。その期間中には、送迎の際にいいに様子を伝えとともに、連絡帳に写真も添付するなど、保護者の保育に対する理解や安心を深めています。 卒園前に退園や転園をする園児には、チューリップ・製作帳などをプレゼントしています 卒園前に退園や転園をする園児には、チューリップ・製作帳・メダルなどをプレゼントしています。転園先には、必要に応じて、「転所児童用児童の状況」を提供し、園児の情報を引き継いでいます。そのほか、今年度の夏祭りは卒園児を招待して実施しています。在園中に使用していたICTアプリでアンケートを行い、希望者に呼び掛けています。			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリ-3の講評		
子どもの記録はICTアプリを活用しながら記録しています 子どもの心身状況や生活状況などを把握するため、保育日誌に子ども一人ひとりについての記録欄を設けるとともに、連絡帳を毎日取り交わしています。なお、これらの記録は、ICTアプリを使用し管理しています。また、子どもの個別の保育目標については保育月案に、家庭や保護者の個別のニーズや支援方針は、面談記録に記録しています。そして、児童票において、0・1歳児は毎月、2歳児は期ごとに集約しながら記録しています。		
指導計画の作成にあたり、連続性のある保育活動を取り入れるよう努めています 「全体的な計画」は毎年3月に見直しを行い、それに基づき、年・月・週を単位として指導計画を作成しています。指導計画の作成にあたっては、子どもの声から遊びが広がり、連続性のある保育活動を取り入れることを意識しています。例えば、「野菜の栽培から始まり、観察・収穫・食育・製作・ごっこあそび・クッキングの流れを作る」など、子どもの興味や体験をつなげる工夫をしています。また、個別の指導計画は全園児を対象に作成しています。指導計画の内容は、年度末会議で振り返りを行い、次年度に向けた見直しをしています。		
職員会議のほか、クラス会議・給食会議・ヒヤリハット報告会議などを開催しています 職員間で子どもに関する情報を共有するために、月1～4回の職員会議を開催しています。加えて、クラス会議・給食会議・ヒヤリハット報告会議などの定例会議を開催しています。これらの会議は必要に応じて参加者や開催頻度を変更しながら開催しています。さらに、昼礼として、毎日15分程度の職員ミーティングを行っています。日々の子どもや保護者の状況については、登降園表を活用するとともに、ICTアプリで情報共有しています。そのほか、「散歩時の危機管理」をテーマに、事例を持ち寄り話し合う機会を設けています。		

サブカテゴリ-5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
個人情報について入園説明会で説明し、利用契約書で同意を得ています 個人情報について、入園説明会で説明し、プライバシーの保護については、利用契約書で同意を得ています。また、子どもの羞恥心に配慮し、着替えをする際にはパーテーションで目隠しするとともに、着脱時に全裸にならないような着替えの手順を指導しています。そのほか、トイレにも目隠しとなるパーテーションを設置しています。 子どもの権利について、区のガイドラインを参照しながら園内研修を実施しています 子ども一人ひとりを尊重する姿勢を区の「保育の質ガイドライン」を参照するとともに、園内研修を実施し、職員の理解を深めています。その際に、「保育者の好ましい行動」などをテーマに取り上げています。また、子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮するために、行事アンケートや個別面談により、日常的なサービスに係る保護者の意向を確認しています。さらに、宗教観や文化に配慮した対応を心がけています。 年1回セルフチェックシートを用いて、職員が自らの言動や行動を振り返っています 虐待や育児困難などの事案については、虐待防止対応マニュアルに則って対応しています。あわせて、虐待防止および適切な対応に備え、職員は園内研修や自治体が主催する虐待防止研修に参加しています。また、年1回セルフチェックシートを活用して職員自らの行動を振り返る機会を持っています。そのほか、虐待に関するニュースなどが報道された際は、職員で共有し意識を高めています。			

サブカテゴリー6			
6	事業所業務の標準化		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
	評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(○○○)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
	●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
	評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(○○)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
	●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
	サブカテゴリー6の講評		
法人で基本マニュアルを整備するとともに、園で業務マニュアルを作成しています 業務の標準化を図るため、法人として防犯マニュアル・事故防止マニュアル・給食衛生管理マニュアル・アレルギー対応マニュアル・感染症対応マニュアル・非常災害対応マニュアル・虐待対応マニュアル・苦情解決マニュアルを整備するとともに、園で独自に、業務マニュアルを作成しています。業務の実施状況は、チェックリストを活用しながら園長が中心となり確認しています。さらに、年度初めに内容を確認する機会を設けることで、マニュアルに対する理解の普及を図っています。 保護者参加行事の増やすなど、職員や保護者の声を受けてサービスを見直しています 業務水準の向上を図るために、事業継続計画(BCP)や業務マニュアルなどについて、定期的に見直しを図っています。また、職員や保護者の声を受けてサービスを見直しています。直近では、保護者の声を受けて、保護者参加行事として、夏祭りを新たに増やしました。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	35 / 35
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇)・非該当1		
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当		
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当		
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当		
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当		
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当		
○あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	●非該当		
評価項目1の講評				
子どもが自分で選択できる環境づくりや関わり方に配慮しています 子どもが自ら選択できるように環境や関わり方に配慮しています。そのような方針に沿って、0・1歳児室は子どもの成長に合わせて多い時には月1回保育環境を変更しています。そして、生活目的に応じた「着替え・昼寝・トイレ」のコーナーや、遊びに応じた「ブロック・ままごと・絵本・パズル・お家」のコーナーを設けています。また、子どもが自ら玩具や教材を取り出せるよう、低い棚の活用やコーナー分けをするとともに、写真を掲示することで、片付けができるようにしています。そのほか、子どもの声を受けて今年度からお当番制度を設けています。 郷土料理やさまざまな行事を通じて、国内の伝統や文化に親しむ機会を作っています 0・1歳児は同じ部屋で過ごしており、生活の中で自然な交流を楽しんでいます。また、2歳児の部屋を訪れ一緒にヨガを行うこともあります。その際、職員は子ども同士のやり取りを大切に、見守ることを心がけています。また、国内各地の文化にふれる機会として、サーター・アンダギーや石狩鍋などの郷土料理を献立に取り入れています。さらに、子どもの日・七夕・夏祭り・十五夜・敬老の日・クリスマス・年賀状・正月あそび・七草・節分・ひなまつりなどの季節や文化にちなんだ行事を行うとともに、行事にあわせた献立も提供しています。 配慮が必要な子どもについては職員配置やスペースを確保するなど環境を整えています 配慮が必要となる子どもの受け入れ体制として、職員を基準以上に配置するとともに、パーソナルスペースを確保するなど、環境を整えています。また、児童発達支援センターや保健センターなどの専門機関と連携するほか、区の巡回指導の助言を受けながら適切な支援を心がけています。子ども同士のけんかやトラブルが生じた際は、見守り・代弁・仲介を基本方針として対応しています。なお、発達の過程で生じるかみつきなどについては、玩具の数や場所を保障することで予防に努めています。				

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当
評価項目2の講評			
ICTアプリの連絡帳機能を活用しながら保護者と子どもの様子を共有しています 全クラスでICTアプリの連絡帳を毎日取り交わしています。連絡帳(機能)には午睡時間・食事量・排泄回数と状態・オムツの使用枚数・体温・活動写真を記載するとともに、ドキュメンテーションを活用して保護者に伝えるなど工夫しています。降園時には、主活動で子どもの様子や健康状態などを対面で報告し、話の始めと終わりはポジティブな内容にするなど工夫しています。そのほか、写真共有アプリや玄関外のホワイトボードも活用し、子どもの様子を共有しています。 子どもたちが遊びを通して自然に生活習慣を身につけられるよう支援しています 子どもの発達段階に応じた支援の方法を児童票や発達記録などに示しています。具体的な取り組みとして、ままごとコーナーで、トンぐやおたまなどを使用して指先を使った遊びを取り入れています。また、着替え指導では、写真入りの手順シートを活用したり、ままごとコーナーにスカートなどの衣服を設置することで、楽しく着替えに取り組めるよう工夫しています。さらに、玩具棚には、色分けや写真の表示を取り入れ、子どもが片付けしやすい環境を整えています。			
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○非該当
評価項目3の講評			
運動遊びや制作活動では年齢や発達に合わせて運動した内容になるように工夫しています 子どもが主体的に活動できるように、遊びに応じたブロック・ままごと・絵本・パズル・お家などのコーナーを設けています。また、子どもの集団活動として、運動遊び・リトミック・ヨガを行っています。運動遊びでは、小さな段差を上ることから始まり、一本橋を渡ることやトンネルをくぐることを目標にするなど、年齢ごとに見通しをもって取り組めるよう配慮しています。制作についても同様に、子どもの発達に合わせて、運動した内容になるように工夫しています。なお、これらの活動は年度初めの会議で話し合って決めています。 手作り楽器の製作や絵の具遊びなどを通してさまざまな表現力を育んでいます 子どもが言葉に興味を持てるよう絵本の読み聞かせや手遊びを取り入れています。その際、子どもが自分の意見を伝えられるよう、選択肢を提示して声かけする工夫をしています。また、音楽を通じて表現力を育む機会として、リトミック・朝の歌・わらべ歌・手作り楽器の製作などを行っています。さらに、描画・造形を通じて表現力を育む機会として、小麦粉粘土・絵の具遊び(弾き絵・にじみ絵・マーブリング)などを取り入れています。 園庭では、トマト・さつまいも・オジギソウ・朝顔などの野菜や植物を栽培しています 散歩に週3～5回程度出かけて近隣の公園などを訪れています。公園や散歩の途中では、ボール遊び・砂場・かけっこ・木の実拾い・虫探しなどをして過ごしています。そして、さくら・アジサイ・キンモクセイ・つつじ・犬・猫・カラス・かめ・メダカ・あり・ダンゴムシ・蝶々などの植物や生き物に出会う体験もしています。また、園庭では、トマト・さつまいも・オジギソウ・朝顔などを栽培するとともに、メダカなどの生き物を飼育しています。			

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○非該当
評価項目4の講評			
七夕・十五夜・クリスマス・正月・節分・ひな祭りなど、季節毎の行事を開催しています 子どもの成長や保育の成果を発表する機会として、「親子ふれあいあそび」や、季節や文化・伝承に親しむ機会として、「子どもの日・七夕・夏まつり・十五夜・敬老の日・クリスマス・年賀状・正月あそび・七草・節分・ひなまつり」などを行っています。特に、夏まつり・親子ふれあいあそびに力を入れています。なお、夏祭りは今年度より保護者を招待して開催しています。それらの行事への興味や関心を高めるため、園内の壁面装飾を行うなど工夫しています。 保護者参加行事についてはアンケートを実施し、保護者の声に耳を傾けています 行事の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るために、年間行事予定表を4月に配布しています。また、行事ごとの目的を園だよりを通じて伝えています。そして、保護者が参加・見学できる行事として、夏まつり・親子ふれあいあそびを開催するとともに、保護者が参加しない活動についても写真販売・動画視聴などによりその様子を伝えています。なお、保護者参加行事については、アンケートを実施して保護者の声に耳を傾けています。今年度の親子ふれあい遊びはオリンピックをテーマに開催してます。 子どもの誕生日には個別に誕生日会を開催し、お祝いしています 子どもの誕生日には、個別に誕生日会を開催し、保護者にも参加してもらっています。会では歌や職員による出し物などを行い、楽しい時間を過ごせるよう工夫しています。また、写真とメッセージ付きの手作りカードをプレゼントし、誕生児が主役として喜びを感じられるよう、冠をかぶった姿をICTアプリに掲載するなどの取り組みも行っています。			
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○非該当
評価項目5の講評			
子どもが安心してくつろげるように各クラスにパーソナルスペースを設けています 子どもが安心してくつろげるように、各クラスにパーソナルスペースを設け、遊びに集中できるようにコーナーを設定しています。また、職員を基準以上に配置し、個別に関わることができるよう配慮しています。 延長保育の際は、スキンシップを大切にするなど、細やかな配慮を行っています 18時から19時までを延長保育の時間として設けており、これに合わせて16時30分から合同保育を行っています。合同保育は2歳児の部屋で実施し、延長保育用のおもちゃを用意しています。また、補食は夕食に影響がないように量を調整して提供しています。さらに、子どもたちとのスキンシップを大切にするなど、細やかな配慮を行っています。			

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている		○非該当
評価項目6の講評			
食事は、楽しく食べることを優先し、好きな席でとることができます 子どもたちは好きな席で食事をすることができ、エントランスでも食べることができるように工夫しています。食事の際には、パーテーションで仕切るなど空間を工夫しています。職員は、完食を目的とせず、楽しく食べることを大切にしています。また、栄養士や調理師は毎日保育室を訪れて、子どもたちの食事の様子を確認しています。 アレルギー対応マニュアルに沿って代替・除去食を提供しています 食材選びや献立作りにおいては、できるだけ国産の食材を使用し、添加物を控えた薄味のメニューを心がけています。また、行事に合わせた献立や盛り付けを行い、行事の雰囲気を楽しんでもらえるよう工夫しています。食物アレルギーがある子どもには、アレルギー対応マニュアルに基づき、代替食や除去食を提供しています。環境面では、子ども一人ひとりに個別の机と椅子を用意し、食事の際には異なる種類の食器やトレイを使用して、誤食防止に取り組んでいます。 野菜の栽培から製作・ごっこ遊び・クッキングなど、連続性のある保育を行っています 食育活動では、「野菜の栽培やクッキングを通じて食材にふれること」を大切にしています。活動は、野菜の栽培から始まり、観察・収穫・製作・ごっこ遊び・クッキングなど、連続性のある保育になるように工夫しています。具体的には、トマト・ピーマン・きゅうり・さつまいも・パジルなどを栽培し、収穫した野菜をスティックサラダやピザなどに取り入れています。また、野菜スタンプで遊んだり、野菜を目の前で切って、輪切りや縦切りで断面を観察したりしています。そのまま生で食べることで素材の味や食感なども経験しています。			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○非該当
評価項目7の講評			
園内の危険箇所にマークを付けることで、子どもの危機管理意識を高めています 子どもが自身の健康や安全に関心を持てるよう、防災訓練では、地震・火災を想定した訓練を毎月実施するほか、水害訓練・不審者訓練・引き渡し訓練・通報訓練を、防犯訓練では、不審者訓練を行っています。なお、今年度は、同じ建物内の障害者施設と合同で避難訓練を実施しています。また、健康指導として、手洗いの歌を取り入れています。さらに、子どもの自身の意識を高めるために、園内の危険箇所にマークをつけ、事故・怪我の防止につなげています。 嘱託医による定期健診を実施し、子どもの健康状態を把握しています 子どもの健康状態を把握するため、嘱託医による0歳児健診(毎月)・健康診断(年2回)・歯科検診(年1回)を実施しています。与薬は基本的にありませんが、食物アレルギー・熱性けいれん・皮膚疾患などの場合は、与薬依頼書の提出とともに薬を預かっています。 毎月保健だよりを発行し、保護者に感染症の予防策などについて知らせています 保護者と連携して、子どもの健康維持に取り組むために、毎月保健だよりを発行し、流行中・流行予定の感染症や予防策などについて伝えています。感染症の流行やSIDSの発生を予防するために、職員は救命救急講習や嘔吐処理研修などに参加し、理解を深めています。感染症が発生した場合は、ICTアプリや玄関掲示により保護者に情報提供しています。そのほか、SIDS対策として、ベビーセンサーを活用し、視診を行って午睡時の子どもの健康状態を確認しています。また、午睡チェック表を使用して、毎回の確認内容を記録しています。			

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○非該当
評価項目8の講評			
保護者の要望を受けて、おむつのサブスクリプションサービスを開始しています 保護者に対し、共育を基本方針として対応しています。具体的な接遇方法については「保育所等における在園児の保護者への子育て支援(保護者支援マニュアル)」を参考にするとともに、外部研修などに参加し、職員の理解を深めています。また、保護者の子育てや就労等の事情に配慮して支援を行うため、就労証明書や個別面談により、子育てに関する保護者の価値観や就労状況を把握し、行事アンケートなどにより、日常的なサービスに係る保護者の意向を確認しています。直近では、おむつのサブスクリプションサービスを開始しています。 保育参加・保育見学・個別面談は希望に応じて随時受け付けています 親子同士の交流を深めるために、親子ふれあい遊びを開催しています。会の中では、保護者も自己紹介や好きな食べ物の発表などをしてもらうことで、参加者同士が互いのことを知る機会になっています。また、保育参加を年2回、保育見学を年1回、個別面談を年2回実施するほか随時希望に応じて受け入れることで、保護者の安心感や職員との信頼関係につなげています。さらに、職員一人ひとりを知ってもらうために、園内に職員紹介コーナーを設置しています。			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○非該当
評価項目9の講評			
買い物体験や地域の方との交流を図っていきたいと考えています 「子どもの視野や興味を広げる」ことを目的として、散歩に出かけた際には、消防署に立ち寄り、訓練の見学や消防車を試乗させてもらっています。また、同じ建物内にある障害者施設と合同で避難訓練を実施しています。そのほか、今後の取り組みとして買い物体験や地域の方との交流を実施していきたいと考えています。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-1-1	利用希望者等に対してサービスの情報を提供している
タイトル①	ICTアプリによる情報発信や保育所体験を開催し、園の認知度向上を図っています	
内容①	園の情報を提供する媒体として、日本語版のリーフレットに加えて英語版も用意しています。また、今年度ホームページをリニューアルし、コンテンツの充実を図っています。さらに、ICTアプリを使った園の活動紹介や地域を走るバスで車内アナウンス広告をするなど、情報発信を強化しています。さらに、地域の子育て支援として、未就園児を対象とした保育所体験を行っています。今後はベビーマッサージやベビーヨガ教室を企画し、子育て支援についてもさらに強化したいと考えています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル②	運動遊び・ヨガなどの集団活動のほか手作り楽器の製作や絵の具遊びを取り入れています	
内容②	子どもが主体的に活動できるように、遊びに応じたブロック・ままごと・絵本・パズル・お家などのコーナーを設けています。また、子どもの集団活動として、運動遊び・リトミック・ヨガを行っています。運動遊びでは、小さな段差を上げることから始まり、一本橋を渡ることやトンネルをくぐることを目標にするなど、年齢ごとに見通しをもって取り組めるよう配慮しています。そのほかにも、わらべ歌・手作り楽器の製作・小麦粉粘土・絵の具遊び（弾き絵・にじみ絵・マージング）などを通してさまざまな表現力を育てています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	夏まつり・親子ふれあい遊び・保育参加など、保護者が参加できる行事を用意しています	
内容③	保護者が参加・見学できる行事として、夏まつりや親子ふれあい遊びを開催しています。加えて、保育参加を年2回、保育見学を年1回、個別面談を年2回実施しており、これらは希望に応じて随時対応しています。また、保護者が参加しない活動については、写真販売や動画視聴を通じてその様子を伝える工夫をしています。さらに、保護者の要望を受けて、おむつのサブスクリプションサービスの導入や、今年度から夏まつりを保護者参加型の行事に変更しました。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	当番制度の導入や興味に合わせたおもちゃの制作を行うことで子どもたちの「やりたい」や「できる」を叶える支援に努めています
	内容	無理強いすることなく、子どもが自ら選択できるように環境や関わり方に配慮しています。そして、興味に応じて、手作りの机や車のおもちゃを用意するなど工夫を凝らしています。今年度は、子どもたちの声を受けて「お当番制度」を設けました。二人一組でタオルやエプロンを配ったり、夕方の会で次の日の当番を発表したりしています。また、子どもたちの思いに応え、トランポリンや巧技台を導入しました。子どもたちの「やりたい」や「できる」を叶えるための支援に努めています。
2	タイトル	食育では、野菜の栽培から収穫、制作、調理体験まで連続性あるの流れを作り、子どもたちが主体的に楽しめるように工夫しています
	内容	子ども主体で楽しめるように連続性のある活動を取り入れています。例えば食育活動では、「野菜の栽培→観察→収穫→製作→ごっこ遊び→クッキング」といった一連の流れを作っています。キュウリ・ピーマン・トマトを栽培し、収穫後はスタンプ作りや、輪切りと縦切りの違いを観察しています。また、生の野菜を味わうことで素材の味や食感も経験しています。さらに、買い物ごっこの中でピザの具材を自分で選択し、1メートルサイズのピザを合同制作しました。みんなで取り組むことで、協力する心や楽しさを共有する気持ちを育んでいます。
3	タイトル	行事後のアンケートや面談、日々の会話を通して保護者の意見を把握し、そのニーズに応える形で保護者参加型の行事を増やしています
	内容	コロナ禍で制限されていた行事を再開し、保護者の意向を反映した事業の構築を進めています。例えば、「保護者参加型行事」への要望に応え、新たに「変装見学」を実施しました。この行事では、保護者が変装して保育中の子どもの自然な姿を観察できる工夫を取り入れています。利用者調査の設問「子どもの気持ちや様子・子育ての悩みなどについて職員と話したり相談することができるような信頼関係がありますか」では全ての方が「はい」と答えています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員同士で意見交換しながら園内の危険箇所マップを作成することで、危機管理意識の向上を図っていききたいと考えています
	内容	子どもたちの安全意識を高めるため、危険箇所には「ウサギが寝ているマーク」を貼り、事故や怪我の防止に努めています。また、ヒヤリハット報告は、各クラスで月5件の提出を目標とし、報告書は会議で共有して対策を話し合っています。さらに、園長自ら保育に入り、実際の対応を示すことで、不適切な保育の防止にも取り組んでいます。一方で、危機管理に対する職員の意識向上を今後の課題と捉えています。そのため、職員同士で意見交換しながら園内の危険箇所マップを作成することで、危機管理意識の向上を図っていききたいと考えています。
2	タイトル	買い物体験や勤労感謝の日に警察署や消防署にプレゼントを届けに行くなど、地域との交流の幅を広げていききたいと考えています
	内容	子どもたちが地域に親しむ機会として、公園に出かけてどんぐり拾いや落ち葉拾いなどを行っています。また、散歩中に消防署の前を通りがかった際に訓練の様子を見せてもらったり、消防車に乗せてもらったりしています。さらに、園と同じ建物内にある障害者施設と合同で避難訓練を行っています。ただし、地域の商店や関係機関などとの交流促進は今後の目標となっています。具体的なアイデアとして、買い物体験や勤労感謝の日に警察署や消防署を訪れ、プレゼントを届けて感謝の気持ちを伝えるなど、交流の幅を広げていききたいと考えています。
3	タイトル	保育の実践手法について伝えている内容を文章化することで、理解の普及と保育の質の向上を推し進めることができると考えられます
	内容	区内6園との交換研修を実施し、外部の知見を学ぶ機会を設けており、他園を訪問した職員が、自園での応用方法を提案・共有するなど、学びを現場に活かす取り組みが行われています。また、職員の希望に応じた研修への参加も推進し、保育観の統一や新たなスキルの習得を目指しています。一方で、保育の実践手法について、現状では園長からの口頭による指導が中心となっている状況です。今後は、その際に伝えている内容を文章化することで、理解の普及と保育の質の向上を推し進めることができると考えられます。



東京都福祉サービス第三者評価結果報告書

福祉サービス第三者評価へのご協力、ありがとうございました。

評価結果(概要)について、ご報告します。



報告者・実施評価機関

- 株式会社ふくし・ファーム（機構04-134）
- 所在地:東京都東久留米市南町1-13-38
- 電話:03-3332-3334（担当:中野）
- メールアドレス:fukushi-farm@servicehyouka.com
- ホームページアドレス:http://servicehyouka.com/hp1/

◎評価実施の流れ



項 目	実 施	備 考
評価開始	2024 年 6 月	
利用者調査開始	2024 年 10 月	ご利用世帯に対するアンケート
保育園自己評価開始	2024 年 7 月	全職員へのアンケート
訪問調査	2024 年 11 月	経営層へのヒアリング、文書の確認等
評価終了	2025 年 2 月	

◎評価結果

園が特に力を入れている取り組み

ICTアプリによる情報発信や保育所体験を開催し、園の認知度向上を図っています

園の情報を提供する媒体として、日本語版のリーフレットに加えて英語版も用意しています。また、今年度ホームページをリニューアルし、コンテンツの充実を図っています。さらに、ICTアプリを使った園の活動紹介や地域を走るバスで車内アナウンス広告をするなど、情報発信を強化しています。さらに、地域の子育て支援として、未就園児を対象とした保育所体験を行っています。今後はベビーマッサージやベビーヨガ教室を企画し、子育て支援についてもさらに強化したいと考えています。

運動遊び・ヨガなどの集団活動のほか手作り楽器の製作や絵の具遊びを取り入れています

子どもが主体的に活動できるように、遊びに応じたブロック・ままごと・絵本・パズル・お家などのコーナーを設けています。また、子どもの集団活動として、運動遊び・リトミック・ヨガを行っています。運動遊びでは、小さな段差を上ることから始まり、一本橋を渡ることやトンネルをくぐることを目標にするなど、年齢ごとに見通しをもって取り組めるよう配慮しています。そのほかにも、わらべ歌・手作り楽器の製作・小麦粉粘土・絵の具遊び(弾き絵・にじみ絵・マーブリング)などを通してさまざまな表現力を育んでいます。

夏まつり・親子ふれあい遊び・保育参加など、保護者が参加できる行事を用意しています

保護者が参加・見学できる行事として、夏まつりや親子ふれあい遊びを開催しています。加えて、保育参加を年2回、保育見学を年1回、個別面談を年2回実施しており、これらは希望に応じて随時対応しています。また、保護者が参加しない活動については、写真販売や動画視聴を通じてその様子を伝える工夫をしています。さらに、保護者の要望を受けて、おむつのサブスクリプションサービスの導入や、今年度から夏まつりを保護者参加型の行事に変更しました。

◎評価結果＜全体講評＞

特に良いと思う点

当番制度の導入や興味に合わせたおもちゃの制作を行うことで子どもたちの「やりたい」や「できる」を叶える支援に努めています

無理強いすることなく、子どもが自ら選択できるように環境や関わり方に配慮しています。そして、興味に応じて、手作りの机や車のおもちゃを用意するなど工夫を凝らしています。今年度は、子どもたちの声を受けて「お当番制度」を設けました。二人一組でタオルやエプロンを配ったり、夕方の会で次の日の当番を発表したりしています。また、子どもたちの思いに応え、トランポリンや巧技台を導入しました。子どもたちの「やりたい」や「できる」を叶えるための支援に努めています。

食育では、野菜の栽培から収穫、制作、調理体験まで連続性あるの流れを作り、子どもたちが主体的に楽しめるように工夫しています

子ども主体で楽しめるように連続性のある活動を取り入れています。例えば食育活動では、「野菜の栽培→観察→収穫→製作→ごっこ遊び→クッキング」といった一連の流れを作っています。キュウリ・ピーマン・トマトを栽培し、収穫後はスタンプ作りや、輪切りと縦切りの違いを観察しています。また、生の野菜を味わうことで素材の味や食感も経験しています。さらに、買い物ごっこの中でピザの具材を自分で選択し、1メートルサイズのピザを合同制作しました。みんなで取り組むことで、協力する心や楽しさを共有する気持ちを育んでいます。

行事後のアンケートや面談、日々の会話を通して保護者の意見を把握し、そのニーズに応える形で保護者参加型の行事を増やしています

コロナ禍で制限されていた行事を再開し、保護者の意向を反映した事業の構築を進めています。例えば、「保護者参加型行事」への要望に応え、新たに「変装見学」を実施しました。この行事では、保護者が変装して保育中の子どもの自然な姿を観察できる工夫を取り入れています。利用者調査の設問「子どもの気持ちや様子・子育ての悩みなどについて職員と話したり相談することができるような信頼関係がありますか」では全ての方が「はい」と答えています。

さらなる改善が望まれる点

職員同士で意見交換しながら園内の危険箇所マップを作成することで、危機管理意識の向上を図っていきたいと考えています

子どもたちの安全意識を高めるため、危険箇所には「ウサギが寝ているマーク」を貼り、事故や怪我の防止に努めています。また、ヒヤリハット報告は、各クラスで月5件の提出を目標とし、報告書は会議で共有して対策を話し合っています。さらに、園長自ら保育に入り、実際の対応を示すことで、不適切な保育の防止にも取り組んでいます。一方で、危機管理に対する職員の意識向上を今後の課題と捉えています。そのため、職員同士で意見交換しながら園内の危険箇所マップを作成することで、危機管理意識の向上を図っていきたいと考えています。

買い物体験や勤労感謝の日に警察署や消防署にプレゼントを届けに行くなど、地域との交流の幅を広げていきたいと考えています

子どもたちが地域に親しむ機会として、公園に出かけてどんぐり拾いや落ち葉拾いなどを行っています。また、散歩中に消防署の前を通りがかった際に訓練の様子を見せてもらったり、消防車に乗せてもらったりしています。さらに、園と同じ建物内にある障害者施設と合同で避難訓練を行っています。ただし、地域の商店や関係機関などとの交流促進は今後の目標となっています。具体的なアイデアとして、買い物体験や勤労感謝の日に警察署や消防署を訪れ、プレゼントを届けて感謝の気持ちを伝えるなど、交流の幅を広げていきたいと考えています。

保育の実践手法について伝えている内容を文章化することで、理解の普及と保育の質の向上を推し進めることができると考えられます

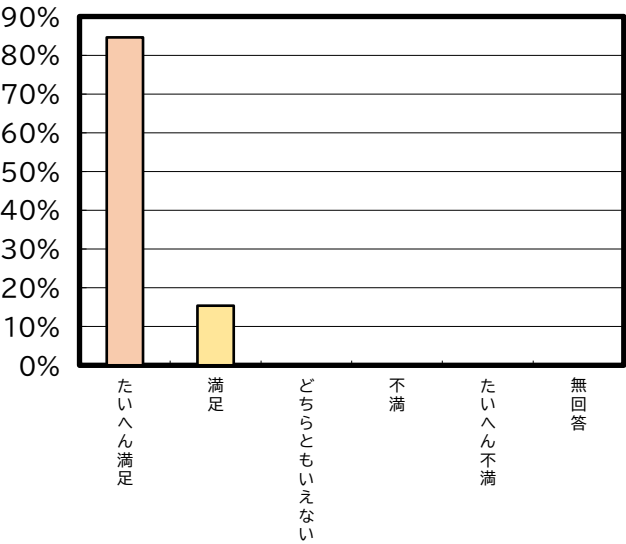
区内6園との交換研修を実施し、外部の知見を学ぶ機会を設けており、他園を訪問した職員が、自園での応用方法を提案・共有するなど、学びを現場に活かす取り組みが行われています。また、職員の希望に応じた研修への参加も推進し、保育観の統一や新たなスキルの習得を目指しています。一方で、保育の実践手法について、現状では園長からの口頭による指導が中心となっている状況です。今後は、その際に伝えている内容を文章化することで、理解の普及と保育の質の向上を推し進めることができると考えられます。

◎利用者調査結果＜概要＞

ご利用世帯数	17 世帯	有効回答者数	13 世帯	回答者割合	76.5%
--------	-------	--------	-------	-------	-------

○総合満足度集計結果

総合満足度	回答数	回答率
たいへん満足	11	84.6%
満足	2	15.4%
どちらともいえない	0	0.0%
不満	0	0.0%
たいへん不満	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合 計	13	100.0%



○個別設問回答結果

設問No.	設問内容	はい	どちらともいえない	いいえ	非該当	無回答
問1	園が独自に組み立てている日々の活動や教育等のプログラムは、子どもの心身の発達に役立っていると感じますか？	92.3%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%
問2	お子さんは、園での活動に興味や関心を示し、学びや遊びを楽しんでいるように見えますか？	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
問3	昼食・おやつなどの給食は、お子さんの成長段階や健康状態に応じて工夫されたものになっていると思いますか？	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
問4	自然とのふれあいや社会との関わりを目的にした行事や戸外活動の機会が充実していると思いますか？	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
問5	急な事情で保育(預かり)時間の延長を申し入れた場合、可能な限り柔軟に対応してくれていると思いますか？	92.3%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%
問6	災害や不審者の侵入など様々な危機を想定して、子どもの安全を守るべき対策が十分取られていると思いますか？	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
問7	行事や参観・保護者会などの活動に、保護者が参加しやすい工夫や配慮(日程調整など)がされていると思いますか？	84.6%	15.4%	0.0%	0.0%	0.0%
問8	子どもの気持ちや様子・子育ての悩みなどについて職員と話したり相談することができるような信頼関係がありますか？	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
問9	トイレ・食事スペースなどをはじめ、園内は全般的にいつも清潔で整理整頓されていると思いますか？	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
問10	職員の言葉遣いや態度は丁寧で、服装などの身だしなみが整っていると思いますか？	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
問11	お子さんがけがをしたり急に体調が悪くなった際の対応や、慢性的な病気への配慮は、適切になされていると思いますか？	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
問12	子ども同士のけんかやいじめ等があった場合、職員は適切に対応してくれていると思いますか？	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
問13	あなたは、職員がお子さんとふれあっている様子を見て、子どもたちの気持ちを大切にしながら接してくれていると思いますか？	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
問14	あなたやお子さんのプライバシー(他の人に知られたくないと思うこと)を職員は守ってくれていると思いますか？	92.3%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%
問15	保育や教育の考え方や指導内容に関する説明は、様々な機会において丁寧に行われていると思いますか？	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
問16	あなたが不満に思ったことや要望を園に直接伝えたとき、職員はきちんと対応してくれていると思いますか？	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
問17	園の対応に不満を感じたとき、役所や第三者委員など園外の機関や窓口相談できる仕組みがあると説明を受けたことがありますか？	76.9%	7.7%	7.7%	7.7%	0.0%